

第27回潮風のキルト展

11月19日(金)から21日(日)までの3日間、砂浜美術館(入野松原)で「第27回潮風のキルト展」が開催されました。

今年で27回目を迎える同展は、「布を楽しむ」をテーマに、小キルト、大キルト、クッションの3部門に分かれ、町内外より計72点の作品が集まりました。審査員には、手芸男子ユニットとして活動する2名を中心メンバーとして集まったPatchwork(パッチワーク)Life(ライフ)を迎え、今年の入賞作品を選びました。

また、高知県を代表するキルトアーティスト・山下和子さんの企画展も行われ、色彩豊かなキルトが11点展示されました。

来場した立花千代乃(ちよの)さんは、「絵画のようだとって見ていたら、さちんと縫われたもので驚いた。発想も素敵で、見たことのないものがたくさんあって素晴らしかったと話しました。」



大賞作品

イスに座って海を見る日

11月21日(日)、入野の浜でNPO法人砂浜美術館主催の「イスに座って海を見る日」が開催されました。

来場者が好きなイスを砂浜に持ってきて、イスに座って海を見る同イベントは、町内外から46組が参加しました。

同館の塩崎草太(くさた)さんは、「砂浜にイスを持ってきて参加するというのは、広い砂浜がある砂浜美術館だからこそ開催できるイベント。初めての試みだったが、楽しみに来てくれる人がいて嬉しく思った。来年も開催できれば」と話しました。

また、昔通っていたレストランが閉店する際に譲ってもらったイスを大阪府から持ってきたという竹本仁(ひとし)さんは、「30年ほどTシャツアート展に来場しているが、今までは立ってしか黒潮町の海を見



たことがなかった。イスに座って見るのは新鮮だったし、落ち着いて見ることができた」と話しました。

楮の収穫・蒸し剥ぎ体験

拳ノ川小学校の5、6年生が集落活動センター佐賀北部の協力を得ながら育てているという楮の収穫が12月3日(金)に行われました。同校では、紙作りの工程を知るという目的で学習を行っており、6月ごろから育てている楮の収穫の際には堅い枝に苦戦し、みんなで協力して刈り取っていました。

また、12月12日(日)には若山楮和紙工房で楮の蒸し剥ぎ作業が行われました。蒸し剥ぎとは、収穫した楮を2時間程度蒸し、蒸された楮の枝の皮を剥く作業のこと。拳ノ川小学校全校児童、佐賀小学校6年生やその保護者、高知大学地域協働学部の学生ら約50人が参加しました。

拳ノ川小学校6年生の宮崎唯羽(ゆは)さんは、「スルツと剥けて気持ち良かった。みんなで競争したりして、楽しく作業できた。育て始めたころは暑くて大変だったけど、楽しかった」と話しました。



蒸し剥ぎ競争をする児童と大学生は、今年の卒業証書に使用されます。

模範高齢者表彰受賞

長年にわたり、地域の社会福祉に貢献し、その功績が特に顕著な模範高齢者などを町が表彰する模範高齢者表彰が12月1日(水)、役場本庁で行われ、篠田博(ひろし)さん・澄子(すみこ)さんご夫婦が受賞しました。

篠田博さんは、区長など地区の役員を通算15年間務めあげ、地区の中心となり尽力されてきました。現在も地区内外の方々との交流や老人クラブ活動での活躍など、地区住民の模範となっていること、また、長年の務めを果たすことができたのは妻・澄子さんの協力があってこそのものであるとして、夫婦での受賞となりました。

受賞した篠田博さんと澄子さんは、「とても光栄なことだと思っ。表彰状までいただいて感謝している。これからも老人クラブの活動などを続けて、みんなと一緒に楽しく元



篠田博さん(右)・澄子さん(左)と町長(中央)

気に過さず話しました。